

S/2(土) あいど！倫理号が。宿願かなうごします。新年度にもつても本陰謀をかいた。有難い。このです。生きてる中の一歩むかしの事は「我を捨てる」事です。このわが身を捨てはいい事せの道が拓かれます。とが。

今週の

倫理

5月のテーマ | 捨我得全

幸七軍ぶアホ一鳥

2021. 5. 22～5. 28

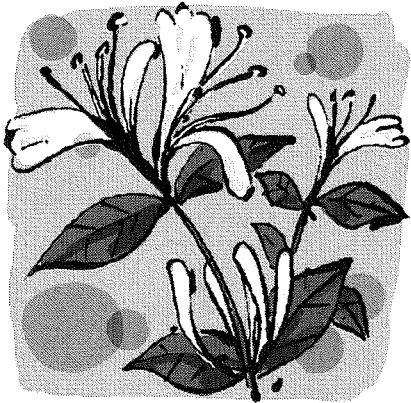
1230号

倫理研究所の創設者・丸山敏雄の自著『歓喜の人生』には、「すべての不幸はわがまま勝手からくる」と記してあります。

通常、学びと言えば、情報や能力を「得る」ことをイメージしますが、倫理法人会では、倫理の学修を通じて己の不幸を招く根本原因の「自分さえよければ」という「わがまま勝手な心」を捨てることを学びます。苦難時に自分の心の中に起る、恐れ、憂え、怒り、悲しみ、妬み、不足不満等の感情に自分自身が気づき、それをさっぱりと捨て去ることで、自他ともに幸せになる道が拓かれるのです。

\* 設備業を営むS氏は平成二十年三月に倫理法人会に入会しました。誘われた当時、氏は、会社の業績が好調で傲慢になっていました。(学ぶものなど何もない)と自惚れ「私に倫理は必要ない」と豪語した際、「あなたが世の中をダメにする！」と指摘されたことが入会するきっかけの一つでした。

その半年後の九月、S氏に苦難が降りかかりました。リーマンショックの影響により、会社が倒産寸前に陥ったのです。そのような最中、所属する倫理法人会が、二単会を設立した後、合同で一年後の九月に日本一の参加者を集う特別の経営者モーニングセミナー(MS)の開催を計画し、S氏は運営の主要メンバーに選出されたのでした。MSの準備や会社の存続のために奔走する日々でしたが、どちらも思い通りに進まず、MSの集客においては運営メンバーた



## 物事の成就是 心が定まった時に 決まる

ちと揉め、不協和音が生じました。

MSの準備と会社の再建について倫理指導を受けると、講師から後始末ができていないことを指摘されました。「そんなはずはない」と憤りながら会社に戻り、事務所や倉庫を整理すると、二トントラック一杯になる在庫商品がありました。その時、S氏は自分の思い込みの強さと、経営者の慢心があったことに気づいたのです。社員や物を粗末にしてきたことを反省し、考え方を改めようという気持ちで芽生えたのです。何事も憶測で考え、躊躇して行動に移さない癖があることを改め、MSの集客をメンバーに求めるだけでなく、自ら誘いに行く実践を決意しました。死にもの狂いで行なう覚悟を決め、苦手な新規開拓に奔走しました。結果、動員目標二千名を達成し、運営メンバーと喜びを分かち合うことができたのです。その数日後に、新規会社から大口契約の依頼が舞い込んだのでした。

\* 人生は順風満帆ではなく外的な要因にも翻弄されながら、良いことも悪いことも起こってきます。幸不幸の分岐点は、苦難に遭遇した時、原因を相手や環境に求めるか、自らを振り返るかに大きく変わります。求める心には「我がため」という自己本位の考え方が存在し、求めれば求めるほど、人からの共感を得られない事態に陥ります。ピンチな時にこそ、勇気を持って自分を振り返り心の誤りを捨てた時、応援者が現われて、新境地が拓かれるのです。